

## <資料1>

「東京レズビアン&ゲイ・パレード2000」のホームページから引用

<http://www.studiostag.co.jp/tlgp2k/title.html>(当時の掲載アドレスです)

正式名称 / 東京レズビアン&ゲイ・パレード2000

~ A Celebration of Sexual Minority Pride ~

スローガン / 始まりのための始まり . . .

開催日 : 8月27日(日) 14時45分

出発集合 : 代々木公園イベント広場

実行委員長 砂川秀樹

2000年4月14日

今回の「東京レズビアン&ゲイ・パレード2000」の名称の問題について、発起人であり、実行委員長である私、砂川秀樹の考えと意見を以下にまとめました。

この問題に関しては、実に様々な意見があり、実行委員会でも意見を完全に一つにまとめることは不可能です。そのため、実行委員と意見を交わしながら作成した文章ですが、しかし、あえて、一人称で私の思いを書きました。よって、この文章の一切の責任は、私が負うものです。

### 「東京レズビアン&ゲイ・パレード2000」の名称について

私が、東京で新しいパレードを行おうと決心した時、始めに悩んだのはパレードの名称でした。札幌で1996年に始まったパレードが、「レズ・ビ・ゲイ・プライド・マーチ」「セクシュアル・マイノリティ・プライド・マーチ」「レインボー・マーチ」と名前を変えたことからそれがとても難しい問題であることが分かります。

1990年代の後半から、日本でも、「ゲイ&レズビアン」という名だけでなく、「クィア」「セクシュアル・マイノリティ」という名称が使われるようになってきました。これは、バイセクシュアル、トランスジェンダー(TG) / トランスセクシュアル(TS)、インターセックス、そして、セクシュアリティによってカテゴライズされたくないことを主張する人たち . . . そのような人たちが声をあげ始め、ともに既存のセクシュアリティの枠組みを考え直そうという動きの中で出てきたものだとは私は認識しています。

私自身、これまでの様々な活動の中でバイセクシュアル、TG / TS、インターセックスの人たちと出会う中で、彼ら / 彼女らとともにセクシュアリティについて考えることの必要性を強く感じてきました。しかし、それでも、私は、このパレードの名称を「レズビアン&ゲイ」でいくと決めました。その理由には、次のようなものがあります。

まず、第一に、私自身の問題です。それは、このパレードの名称を考える時に、私の中で「私には『セクシュアル・マイノリティ・パレード』あるいは『クィア・パレード』というパレードを組織し、運営することはできない」という思いがあったということです。今回このパレードは、事の始まりに往々にしてあるように、様々な人の励ましと支えを得つつも、私が個人で呼びかけて始めなければなりません。その中で、私は自分の依って立つ場から始めるしかありませんでした。そして、私にとってのその場は、やはりゲイであり、また、まず呼びかけられると思ったのは、同じ「同性愛者」としてくられるレズビアンだったのです。

そして、また、パレードそのものの成否にかかわる問題があります。現在、その顕在性から考える限り、パレードに最も多く参加し、またパレードを人的・金銭的に支えることになるであろう人たちは、ゲイです。そのため、どれだけ多くのゲイの参加とバックアップを得られるかが、パレードの成否を左右します。そう考えると、「セクシュアルマイノリティ」や「クィア」といった言葉をパレードの全面に出すことは、少なくとも現時点では、決して「得策」ではないということです。そして、もう一つ、私の中で、「本当に、『セクシュアルマイノリティ』や『クィア』という名のもとで皆がくくられることがいいのか」という疑問への答えが出ていない、ということもあります。

そんな思いや考えから、私は、「レズビアン&ゲイ・パレード」という名でこのパレードを立ち上げ、そして、「他の『セクシュアルマイノリティ』の人でも(もちろん、「セクシュアルマイノリティ」でない人にも)このパレードを応援して下さいならば参加して欲しい」という呼びかけをするという形を取ろうと決めたのです。

しかし、問題は、そう簡単にはすみませんでした。それは、私自身が、このパレードを「レズビアン&ゲイによるレズビアン&ゲイのためのパレードにする」と割り切ることができなかった(できない)ということによります。

なぜなら、先にも記したように、私自身も、T G / T S、バイセクシュアル、インターセックス、セックスワーカー等々、色々な人との出会いがあり、その中でセクシュアリティの問題について考えてきた経緯があり、また、ゲイの間でのT G / T Sへの誤解や差別感が根強いことを実感し、それに対し強い問題意識を感じていた(いる)からです。

そのため、一旦パレードの方向性を決めた後でありながら、T G / T Sの活動をしている知人からの要望があったことを機会に、副題や企画書、宣伝文のあちこちに「(他の)セクシュアルマイノリティ」という言葉を中途半端な形で入れることになり、場合によっては、「『セクシュアルマイノリティのためのパレード』である『レズビアン&ゲイ・パレード』」というような、明らかに、矛盾や問題を抱えた表現を登場させる結果になってしまったのです。これは、ここまで書き記してきたように、パレードを起こす上での私の限界や迷いと、未だに答えの出ない問いをめぐる逡巡を映し出したものと言えます。

そして、その矛盾とパレードの名称の持つ問題性に対して批判の声も寄せられました。しかし、今の私には「矛盾と問題が潜んでいることを十分に認識しつつ、それについて思考をめぐらせ、検討を続けながら進んでいきたい」と答えることができず。そして、実際に実行委員会の中でも意見を交わし、検討しています。それぞれのメンバーがそれぞれの地点から考えています。

しかし、当然のことながら誰もが納得しうる答えはありえません。何かをとれば何かを切り捨てることになります。だから、慎重に考えていく必要があるのだと思います。これは、私や現在の実行委員だけでなく、今後パレードを担っていく人たちの課題として継いでいくべきことでしょう。恐らく、このことをめぐる思考や議論は、そう簡単には進まず、また、一見堂々巡りに見えるものになることでしょう。また、「答え」と呼べるものがあるのかどうかすらわかりません。でも、常に問題意識を持ち、問いかけていくことは、例え「明解な答え」を得られなかったとしても、意味深い過程であると、私は信じています。

最後に・・・今回、私の限界と迷いにより、このパレードは、このような名称で、かつ、矛盾と問題をはらんだものとなりました。このあり方に疑問を感じ、新しいビジョンを持つ人たちが、私が抱え迷っていた(いる)ような問題を乗り越える新しいパレードを、今後、自らの手で作りあげていってくれなら、とてもうれしく思います。

## <資料 2>

以前の札幌ミーティングのホームページから引用

<http://www2.orions.ne.jp/hsa/pared-1.htm> (移転前のアドレスです)

「第4回レインボーマーチin札幌」

日時：1999年9月19日(日)午後1時スタート

集合時間/場所：札幌市大通公園西6丁目広場/午後12時

### なんで今年は「レインボーマーチ」って名前なの？

国内唯一&最大(唯一だもの最大に決まってるんですけど)のセクシャルマイノリティのパレード、それが札幌のパレード。去年は史上最高の参加者でおおいに盛り上がり大成功。

今年は9月19日(日)に決行なんですけど、またまた名称が変わったんですね。

第1回目は「レズビゲイプライドマーチin札幌」、第2、3回目が「セクシャルマイノリティプライドマーチin札幌」で、第4回目の今年は「レインボーマーチin札幌」にリニューアル。

札幌のパレードってところどころ名称が変わるというイメージが定着しそうですね。

思いきって来年は一般公募をしましょう、採用の際には実行委員長の座が得られるの！

応募者殺到よね、きっと、多分(苦笑)。よくよく考えると第2、3回と「セクシャルマイノリティプライドマーチin札幌」で開催してきたのだから、再び名称を変更すること自体解せないと思う方もいらっしゃるでしょう。では何故「セクシャルマイノリティプライドマーチin札幌」から「レインボーマーチin札幌」へと名称が変わったのでしょうか。実はこのパレード名称問題(勝手に名付けたけど)ほぼ毎年口の端にのぼるみんなのお気に入りのテーマで、今年は初め大きく分けて二案が出ていました。一つは「セクシャルマイノリティプライドマーチin札幌」で続行という案、もう一つは「レズビアン(バイセクシャル)ゲイプライドマーチin札幌」というもの。前者のメリットとしては、性的少数者全体を表象出来、性的少数者同士のみならず、広く全てのマイノリティが連帯する場としてのパレードの意義が明確になる点。そして「セクシャルマイノリティ」という名称を継続して使用していくことで「セクシャルマイノリティ」という概念が社会に定着していくのではないかという意見がありました(定着させる必要があるのかという疑問の声もありました)。デメリットとしては、「セクシャルマイノリティ」という名称では社会に対するアピール度が低いこと。また「セクシャルマイノリティ」という名称そのものに、自らをアイデンティファイしづらい(又は出来ない)拠って何だか自分達のパレードという気がしないという意見もありました。対する後者の案は、「レズビアン(バイセクシャル)ゲイ」と謳うことによる対世間的なアピール度の高さが最大のメリットです。しかし逆に「レズビアン(バイセクシャル)ゲイ」と謳うことで、レズビアン(バイセクシャル)ゲイがあたかもセクシャルマイノリティ全体の代表であるかのような高慢な印象を与える不安があるというデメリットが挙げられました。話し合いは限りなく平行線を辿り、行き詰まった感があった矢先の2月末、札幌ミーティング10周年記念合宿セミナーで新案「レインボーマーチin札幌」が登場し決定に至った次第です。セクシャルマイノリティのリベレーションのシンボルであるレインボー、それを織り成す6色のハーモニーはそのまま性的少数者全体を表象できます。また性的少数者同士のみならず、広く全てのマイノリティが連帯する場としてのパレードの意義にふさわしいものだと思うし、多様性を認めあえる成熟した社会の実現を目指すパレードの趣旨に沿うシンプルかつキュートなシンボルではないでしょうか。とにかく今年のパレードは「レインボーマーチin札幌」、9月19日(日)決行です！